

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
専門学校 北九州自動車大学校		昭和51年6月8日		籠谷 正則		〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人ぜんりょう学園		昭和34年4月6日		中村 文彦		〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	一級自動車整備科		—	平成23年文部科学省告示第170号																		
学科の目的	二級自動車整備士の知識に加え、ハイブリッド自動車や電気自動車などの低燃費環境対応車、運転支援システムを搭載した先進安全自動車などの新技術、高度診断技術、接客対応にも対応した一級小型自動車整備士を養成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
4年	昼間	4031時間	1499時間		2532時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
200人		62人	0人	15人	5人	20人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験による点数と平常点を合算し100点を満点とする整数によって表す																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月18日～8月26日 ■冬季:12月25日～1月9日 ■学年末:3月26日～3月31日			卒業・進級条件	当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1.2年次60点以上、3.4年次70点以上であるとき。ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方を取得すること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席が発生した場合、直ちに学生本人及び保護者との連絡を密にすることで欠席理由及びその解決策を講じる。			課外活動	■課外活動の種類 校友会、学園祭実行委員会、学生フォーミュラチーム、エコランレースチーム、ラジコン同好会 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車販売会社(ディーラー) ■就職指導内容 進路担当教員と担任教員が学生一人ひとりにあった進路指導を入学直後から実施。 ■卒業者数 : 17人 ■就職希望者数 : 17人 ■就職者数 : 17人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 なし (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>17名</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>14名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>14名</td> <td>14名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	17名	9名	二級ガソリン自動車整備士	②	14名	14名	二級ジーゼル自動車整備士	②	14名	14名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
一級小型自動車整備士	②	17名	9名																				
二級ガソリン自動車整備士	②	14名	14名																				
二級ジーゼル自動車整備士	②	14名	14名																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 3.3% ■転科者(流出)4名(流入)3名 平成29年4月1日時点において 在学者 60名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において 在学者 57名 (平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲の低下。学業不振。健康上の理由。 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業後の理解力と平均的学力到達度を確認しながらの指導と教職員全員に周知することで日頃の行動等 zu 注意深く観察し担任への協力を行う。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度…学業・人物ともに優秀な学生を支援する制度で、特待生試験の結果が優秀であった合格者に適用 グループ校奨学金制度…受験生本人、もしくは2親等以内の親族が本校・グループ校の卒業生もしくはは在学生である場合に適用 女子奨学金制度…将来、自動車整備士として活躍する女子入学生を支援する制度で、女子入学者全員に適用。 ■専門実践教育訓練給付: 対象外																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	https://www.kamc.ac.jp																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムに関して、自動車整備士として必要な実践的かつ専門的な能力を育成するべく構成されるよう、その内容を検討し、職業教育水準の向上を図る事を目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会で検討された内容は、開催された会議ごとに意見を取りまとめた上、学内で共有し、カリキュラムの改善に活用することとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
籠谷 正則	専門学校 北九州自動車大学校 校長	2018.4.1～2019.3.31	
清末 裕貴	専門学校 北九州自動車大学校 副校長	2018.4.1～2019.3.31	
本田 晴彦	専門学校 北九州自動車大学校 学務部長	2018.4.1～2019.3.31	
中村 仁	専門学校 北九州自動車大学校 事務局長	2018.4.1～2019.3.31	
梶島 大希	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 北九州事務所 所長	2018.4.1～2019.3.31	①
桑原 淳	ネットヨタ北九州株式会社 サービス部課長	2018.4.1～2019.3.31	③
勢 隆	北九州ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長	2018.4.1～2019.3.31	③
池内 修一	株式会社オートブラザウチ 代表取締役	2018.4.1～2019.3.31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年度年2回を目途に実施。実施時期は学期の区切りを目途に設定している。

(開催日時)

第1回 平成30年10月11日(木) 10:00～11:00

第2回 平成31年3月7日(木) 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(委員からのご意見)企業の行う基本教育(安全教育)や、より実践的な内容を学生へ指導して頂きたい。
(活用状況)企業委員様のご支援を頂き、1・3年生を数グループに分け、同社研修センターにて基礎講習を実施。学習意欲や就職意欲の向上効果も見られた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を十分にいかしつつ本校専門課程の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習の授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業等と協定を結び、実習・演習等を実施。授業内容や方法及び学習成果の評価について企業等と連携を行う。学修成果の評価については、学生が修得した技能を含む実践的かつ専門的な能力について評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
社会教養学	全般的な基礎学力向上と応用力や判断力等を含めた総合的な能力を育成する。 (連携内容)就業現場まで学生を引率して出向き、現場の雰囲気を感じるとともに、エンジニアの仕事内容や社会人としての心構えを修得する。	ネットヨタ北九州(株) 北九州ダイハツ販売(株) 福岡トヨタ自動車(株) (株)スズキ自販福岡 (株)九州マツダ

<p>社会教養学 エンジン構造 シャシ電装整備</p>	<p>自動車を構成している部品の確認と分解・組立・点検・調整、日常点検、車検整備などを行い、整備作業を修得する。 (連携内容)様々な車両や新技術についての知識を修得する。</p>	<p>マツダ(株) (株)九州マツダ 福岡スバル(株) スズキ(株) (株)スズキ自販福岡 昭和グループトヨタ販売店 ネットトヨタ北九州(株) いすゞ自動車九州(株) (株)ヤナセ</p>
<p>体験実習</p>	<p>企業と連携し、実務実習として実際の現場で職業体験を行う。 (連携内容)各個人毎に指定された実習現場において職業体験を実施。実際の業務、先輩からのアドバイス等を通して職場の理解を深める。</p>	<p>ネットトヨタ北九州株式会社 エム・エス・ケー農業機械株式会社 日立建機日本株式会社 山口ダイハツ販売株式会社 福岡トヨペット株式会社 日産プリンス福岡販売株式会社 株式会社ホンダカーズ福岡 株式会社スズキ自販福岡</p>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業等が計画的に実施する教育研修、実技研修、最新機器を用いた点検・整備方法などの研修を教員に受講させることにより、学生への教育的指導効果を向上させることを目的として研修規程を定め、自動車分野における実務について、自動車技術の進展に即した教育内容や指導方法を本校専門課程において実践できるよう、研修への積極的な参加を促す。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. 「マツダ(株)主催 スカイアクティブ技術セミナー
対象:教員 1名
期間: 2日
受講内容:i-ACTIVSENSEの概要、エーミング作業の座学及び実習
2. 「(株)バンザイ」主催 車両の安全装置について
対象:教員 1名
期間: 1日
受講内容:エーミングの重要性について、最新のサポートツールについて
3. 「福岡県整備振興会」主催 タイヤ空気圧充填作業特別教育
対象:教員 2名
期間: 1日
受講内容:空気充填時の注意点、タイヤ・ホイールの良否判定の仕方、近年の充填作業時の事故例

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 「全国自動車大学校・整備専門学校協会」主催 教職員研修会
対象:教員 1名
期間: 4日
受講内容:若者気質の変遷、コーチング&コミュニケーション技法、問題解決手法を用いたグループ研修、ゆとり教育と基礎学力などについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. 「トヨタL&F福岡(株)主催 教員向け説明会
対象:教員 2名
期間: 1日
受講内容:先進の物流システムについて、座談会

2. 「(株)ケーユーホールディングス」主催 教員向け説明会
 対象:教員 2名
 期間: 2日
 受講内容:最先端のサービス現場について
3. 「福岡県自動車整備振興会」主催 電子制御装置トラブル・シューティング
 対象:教員 1名
 期間: 1日
 受講内容:実際に発生した事例の原因推定、故障診断の手順、整備方法

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 「全国自動車大学校・整備専門学校協会」主催 教職員研修会
 対象:教員 1名
 期間: 3日
 受講内容:若者気質の変遷、コーチング&コミュニケーション技法、問題解決手法を用いたグループ研修、ゆとり教育と基礎学力などについて

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月文部科学省策定)」を踏まえ、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、学校自らが評価を行う「自己評価」はもとより、企業等の役員又は職員が学校関係者として評価に参画し、自己評価の結果を評価することを基本として行う「学校関係者評価」の実施及び公表を行うとともに、その評価結果を踏まえた教育活動その他の学校運営の改善に取り組む。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育人人材像／職業教育の特色／将来構想／周知／業界のニーズ把握
(2)学校運営	運営方針／事業計画／規則／規程整備／意思決定システム／コンプライアンス／情報公開 他
(3)教育活動	教育編成・実施方針／時間の確保／カリキュラム編成／工夫・開発／産学連携 他
(4)学修成果	就職率／資格取得率／退学率／社会的活躍・評価把握／キャリア形成効果把握・改善
(5)学生支援	進路支援／学生相談／経済支援／健康管理／課外活動支援／生活環境支援／保護者連携 他
(6)教育環境	施設・設備／学内外実習施設・インターンシップ・海外研修／防災体制整備
(7)学生の受入れ募集	募集活動／教育成果の正確な伝達／学納金の妥当性
(8)財務	中長期計画／予算・収支計画／会計監査／財務情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準遵守・適正運営／個人情報保護対策／自己評価実施・問題点改善／自己点検結果公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献／ボランティア活動／公開講座・教育訓練
(11)国際交流	留学生受入・派遣／留学生在籍管理／留学生学修・生活指導／評価取組

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(委員からのご意見)カリキュラム見直しについて・・・カリキュラムの見直しをした際にはしっかりそれを各企業と共有することが大事だと思う。
 (活用状況)2019年度より、大幅なカリキュラムの見直しを実施予定。教育課程編成委員会にもその内容を諮り、意見を聴取する。

(委員からのご意見)インターンシップの実施拡大について・・・インターンシップは学生と企業のお互いのプラスになる面が多いと思うので、取組を進めていただきたい。
 (活用状況)2018年度から既に取り組みを開始。継続して実施する。

(委員からのご意見)連携不足解消のための組織変更について・・・連携不足解消、また情報の水平展開実施に向けて良い取組と思う。
 (活用状況)2018年度より組織変更。各学科に新たに責任者(学科長)を配置することで学科間の連携を強化した。

(委員からのご意見)ホームページ等からの即時情報発信について・・・Facebookのページは非常に良いと思う。
 (活用状況)Facebook、Twitter、Instagram等の各種SNSを通じて、行事や日々の様子などを適宜発信している。

(委員からのご意見)授業評価アンケートについて・・・アンケート結果の評価を上げることが主な目標にならないよう注意する必要がある。
 (活用状況)授業評価アンケートの実施については、評価の情報を教員間で共有することで是正を図る。

(委員からのご意見)教員の一級自動車整備士取得について・・・一級の資格だけではない。教員は十分に持っている知識と経験を活かした教育に取り組んでほしい。
 (活用状況)教員のほとんどが現場経験を十分積んでおり、その知識や経験を学生達により還元できるよう工夫に努める。

(委員からのご意見)国家資格合格率について・・・二級が不合格で就職したのち、二級を取得することは非常に難しい。一級の合格率については、北自大は他校と比較しても高い方だと思う。今後も合格率を上げてほしい。
 (活用状況)2018年度卒業生については、二級全員合格を達成。引き続き全員合格を目標に指導に努める。

(委員からのご意見)卒業生が社会的に活躍している状況の把握について・・・同窓会に協力をお願いして、卒業生の活躍ぶりを情報収集してはどうか。

(活用状況)同窓会と密に連携をとり、卒業生が社会的に活躍している状況を収集し、ホームページやパンフレット等で周知していきたい。

(委員からのご意見)課外活動について・・・私もソーラーカーに参加させていただいたが、とても良い経験になり、そこから学んだことも多かった。授業とは違い、自分で考えることも多々あるので、人材育成にもとても良いと思う。

(活用状況)担当する教員の負担が大きいが、支援体制を検討し、課外活動を充実させていきたい。

(委員からのご意見)企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制構築について・・・“気軽”という所がキーワードかと思う。是非ともその手段の構築に向けて尽力いただきたい。

(活用状況)企業ニーズをいかに授業に取り組んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。

(委員からのご意見)施設・設備の充実について・・・Facebookを見ていても企業から提供された教材車の充実ぶりに驚かされる。ただ、基礎を勉強する上では昔ながらの車の方が分かり易い部分もあるので、そういった車を残すことも大事だと思う。

(活用状況)最先端の自動車について学ぶことも大切だが、学生がより分かりやすく学べる環境を重視して教材を充実させていきたい。

(委員からのご意見)Facebookなどでよく見かけるが、今色々な車を企業が持ってきてきていると思う。そういった時に学生だけでなく、地域住民の方もそういった車を見る機会を作ることはできないか？

(活用状況)授業で展開する場合は難しいが、学園祭で実施している北自大モーターフェスを継続実施し、地域の方でも色々な車に触れられる機会を維持していきたい。

(委員からのご意見)留学生の受入について・・・留学生の受入は他の学生にとっても異文化への理解につながるなど良い影響が必ずあると思う。ただ、教職員についても、そういった留学生に対応できる人材が必ず必要になると思う。今後の成果に期待する。

(活用状況)2018年度から複数名の留学生の受入を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
梶島 大希	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 北九州事務所所長	2018.4.1～2019.3.31	企業等委員
金丸 孝弘	株式会社ワークホイル 福岡営業所所属	2018.4.1～2019.3.31	企業等委員
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所所属	2018.4.1～2019.3.31	企業等委員
宮本 達也	株式会社グリーンライン保険サービス所属	2018.4.1～2019.3.31	企業等委員
穂枝 浩志	同窓会役員	2018.4.1～2019.3.31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて公表(平成30年7月2日) URL https://www.kamc.ac.jp/self_inspection

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者が本校専門課程全般について理解を深めるとともに、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、本校専門課程の教育活動や支援体制、財務状況等、学校運営状況に関する情報をホームページ上に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要／教育方針
(2) 各学科等の教育	学科・コース概要／取得可能資格
(3) 教職員	教員名簿(職名、取得資格、主な担当科目)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	進路状況・実績／就職先企業／バックアップ体制
(5) 様々な教育活動・教育環境	特色／授業風景／施設
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ
(7) 学生納付金・修学支援	入学金／年間学費／諸経費／支払時期／公的奨学金制度／独自奨学金制度
(8) 学校の財務	資金収支計算書／事業活動収支計算書／貸借対照表／財産目録
(9) 学校評価	自己点検評価結果／学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生受入
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページにて公表 URL <https://www.kamc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会教養学	全般的な基礎学力向上と応用力や判断力等を含めた総合的な能力の育成並びに就職活動へ向けた企業研究の準備	1 前	26		○	△		○	○	○	○	
○			体育・競技	校外において体育的な行事を行うことで学生間の親睦を深め、心身ともに健康な体を育む	1 2 通 通	14.4				○	○	○			
		○	外国語会話	一般的な日常英会話からサービスマンとして顧客に対する説明なども含めた会話力の修得	4 通	28.8		○			○			○	
		○	情報技術	情報技術(インフォメーション・テクノロジー:IT)について情報とは何か、情報の取扱などについて修得	3 通	46.8		○			○		○		
		○	物理学実験	物理法則について実験で確認しながら理解を深めると同時に測定の基本の修得	3 後	46.8				○	○		○		
○			ガソリン・エンジン構造	ガソリンエンジンを構成している各部品の名称と構造及び役割、電子制御システム、基礎全般についての理解及び修得	1 2 通 前	78		○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン構造	ガソリンエンジンとの違いなどを含めながら構造、機能についての理解及び修得	1 通	52		○			○		○		
○			シャシ構造	自動車のシャシ関係の名称と構造・役割及びそれらの装置の電子制御についての理解及び修得	1 2 通 前	78		○			○		○		
○			電装構造	自動車電装品の主要装置について概要を知り、実際の部品と回路図を結びつけながら構造と作動についての理解及び修得	1 通	52		○			○		○		
○			自動車新技術	自動車に使われている新しい技術について構造や作動の理解及び修得	2 後	26		○			○		○		
○			電子制御装置	半導体や論理回路及び電子制御装置の仕組みと制御について概要の理解及び修得	2 後	26		○			○		○		
○			自動車数学	基礎的な数学内容と自動車整備士としての計算問題の理解及び修得	1 後	26		○			○		○		
○			電気・電子理論	電流・電圧・抵抗を基礎として電気回路、コイルの誘導作用、交流、整流作用、トランジスタの動作原理などの理解及び修得	1 3 通 前	79		○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車材料	自動車に使われている各種の材料についての特性と用途、鋼材の性質・熱処理の方法および非鉄金属の特性についての修得及び修得	1 3 前通	25.6		○			○	○			
○			燃料・油脂	自動車用燃料の性状や潤滑油についての理論及び種類を理解し、自動車の各種潤滑油と代替燃料についての理解及び修得	1 3 前通	25.6		○			○	○			
○			自動車図面	JIS規格に基づく図形の表し方や寸法記入方法を修得し、図面からその形状が理解できるように、また、製作したいものを図面に描くことができる能力を養う	1 前	26		○			○	○			
○			自動車の構造・性能	自動車の振動・騒音に関する防止対策、燃料電池などについての理解及び修得	3 後	27		○			○			○	
○			自動車の力学・数学	1年次の自動車数学を基礎として応用的な数学内容と、より高度な自動車整備士としての計算問題の理解及び習得	3 前	14.4		○			○	○			
○			図面	CADの操作方法を学び、その機能を生かして図面作成の技術の修得	4 後	23.4		○			○			○	
○			ガソリン・エンジン整備	ガソリンエンジンの性能を十分に発揮できる整備知識、主にエンジンオーバーホールと作業要領と流れについての理解及び修得	1 2 後前	52		○			○	○			
○			ディーゼル・エンジン整備	ディーゼルエンジンの性能を十分に発揮できる整備知識、主にエンジンオーバーホールと作業要領と流れについての理解及び修得	2 前	26		○			○	○			
○			シャシ整備	動力伝達装置、緩衝装置、操舵装置や無段変速機(CVT)、車両安定制御装置(ABS、TRC、VSC)、エアバッグなどについて構造、機能、点検を基に整備方法の修得	1 3 後通	71		○			○	○			
○			電装整備	ハイブリッドなどの構造を主として総合的な電装品について整備内容、外部診断器の活用についての理解及び修得	2 3 前通	71		○			○	○			
○			故障原因探求	故障診断の基本を重視し不具合現象例について、フローチャートが描けるようにすると同時に電子制御への理解を高めることで診断技術の向上を目指す	2 3 後後	79		○			○	○			
○			総合整備	構造、整備、故障探求などの知識を基に、あらゆる角度から状態を分析し、適切な整備手順を判断する能力を修得	2 後	26		○			○	○			
○			エンジン整備	基礎的な内燃機関の構造・整備について総仕上げ的内容とし、各センサ、アクチュエータ、ECUの構造・機能・電気回路の構成と点検を含む信号電圧点検についての理解及び修得	3 通	45		○			○	○			
○			シャシ電装整備	警報装置、オートエアコン、通信システム等、ボデー電装について構造・機能及び整備方法の理解及び修得	2 前	26		○			○	○			

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			総合診断	情報提供として必要になる「受付」「問診」「整備内容説明」等における知識及びこれらを活用した応酬話を学習・修得し、これらの知識をもとにロール・プレイを実施する	3 後	30.6		○			○				○
○			環境保全	自動車を主として、環境に及ぼす影響や課題、環境保全の必要性についての理解及び修得	3 前	11.7		○			○				○
○			安全管理	整備現場における安全を守るために必要な、安全点検方法や確認作業の重要性について理解及び修得	3 前	11.7		○			○				○
○			ソーシャル	ビジネスマナーの考え方や身だしなみ、話し方、言葉遣いなど社会人としてのマナーなどを修得	3 前	27		○			○				○
○			経営学	リーダーとして、あるいは整備士が経営にかかわり企業を発展させるための基礎的知識の修得	4 前	16.2		○			○		○		
○			マーケティング	商品やサービスを研究開発・生産・広告宣伝・販売・流通・会計・財務など一連のプロセスについての修得	4 前	27		○			○				○
○			パワーエレクトロニクス	電子機器に使用される素子や半導体の性質とその使い方を実験を通して理解及び修得	4 前	28.8					○	○		○	
○			モータ・自動制御	マイコンによってLEDに流れる電流をPWM制御で変化させ、明るさの制御を学び、マイコン及びインバータによって三相交流を発生させ、三相誘導電動機を駆動させ理解及び修得する	4 後	86.4					○	○		○	
○			整備機器	自動車検査用機器の正しい使用法、保守管理及び機器に該当する道路運送車両法の基本的な検査基準を実際の機器で確認しながら修得	1 3 通前	66.4		○				○		○	
○			自動車検査	自動車整備士として実務である定期点検及び整備事業関係法令の重要性やモラルの理解及び修得	2 3 後前	35		○				○		○	
○			自動車法規	道路運送車両法、保安基準を修得することにより、安全確保・環境保全を図る	2 3 前後	40.4		○				○		○	
○			手仕上げ工作機械工作	工作機器を使って簡単な部品などの作製を通して、正しい工作機器の取り扱い方法の修得	1 3 前前	30					○	○		○	
○			基本工作・測定	自動車整備に関わる測定機器を使用して、その正しい使用方法と測定値の読み方を修得する	1 前	45.6					○	○		○	
○			応用計測	インピーダンスについて学習し、実験を通して理解を深め修得する。また、コンパレータやオペアンプなどのアナログ演算器についても学習する	4 前	14.4		△			○	○		○	

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車整備作業	自動車を構成している部品の取付位置の確認と分解・組立・点検・調整方法の理解及び修得	1 2 3 通 通 通	1554.4				○	○		○	○	
○			自動車検査	自動車の日常点検、定期点検、車検整備などを行い、検査ラインを使用しての確認作業を通して理解を深める	2 3 後 後	67.6				○	○		○	○	
○			体験実習	企業と連携し実務実習として実際の現場で体験を行う	4 前	220				○	○	○	○	○	
○			評価実習	体験実習の効果や理解度の確認を行う	4 通	600				○	○		○		
合計					45科目	4031		単位時間(単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1,2年次60点以上、3,4年次70点以上であること。ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方を取得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。